

《多摩川の流域とは》

流域とは、河川に雨が集まる地域を指します。国土交通省京浜河川事務所が定義している流域図は、まさにこの考え方に拠ります。

この考え方では、東京メガシティは、利根川・荒川・多摩川などの中下流域に形成されています。

しかし、東京メガシティの中心部は、多摩川が形成した扇状地に、箱根山や富士山の火山灰が降り積もった地盤に立地していますから、多摩川流域に降った雨が地下水となって豊かに流れています。

仮に、地下水となって流れている地域をも流域に含めるとすると、多摩川の流域は、隅田川右岸にまで広がります。

また、大規模洪水のとき、氾濫流が流れる地域をも流域に含めるとなると、多摩川の流域は、鶴見川下流域も含まれてきます。

世界の多摩川として流域を考えると、地下水の流れや大規模洪水時の流れを含んだ広い地域として考えてみたいと思います。自然の水循環という視点で、東京圏を見てみたいからです。

写真は、水循環から見た多摩川の流域概要（細見作成）

